

海況速報

平成 17 年度 第 5 号 (通算 No.107)
平成 18 年 1 月 10 日
北海道立水産試験場



内容についてのお問い合わせは
中央水産試験場 海洋環境部
Tel 0135-23-4020

11 月下旬から 12 月上旬の海況

12 月は時化が多く、日本海側は十分な観測ができませんでした。このため日本海海域は 3 つに分けて水温分布図を作成しています。

日本海海域

時化続く

今回も、積丹半島沖の観測が十分にできませんでした。前回(10 月)積丹半島西方にあったと推定された暖水渦との関連が不明ですが、積丹半島西方沖の 43-30N、140-00E 付近に暖水渦があります(200m 層で 5 以上)。この暖水渦の影響を受けた、43-30N、140-00E における 200m 層水温は 5.58 と平年より 2.7 高く(水温偏差表 日本海 43-30N J35 参照)なっています。対馬暖流は奥尻海峡を北上しているようですが、奥尻以北の流路ははっきり分かりません。水温偏差について見ると、平年並みのところが多くなっています。

余市における 11 月上旬以降 12 月下旬までの沿岸水温(旬平均)は、11 月下旬まで「かなり高い」~「やや高い」で推移しましたが、12 月にはいり「平年並み」~「かなり低い」となっています。

道東太平洋海域

沖には暖水塊

暖水塊の端が、41-30N、146-00E 付近に見えています(100 層水温で 12 以上)。この暖水塊の北側は広く親潮でおおわれていますが、沿岸側では宗谷暖流起源の道東沿岸流(*1)の影響が根室半島沖から襟裳岬へ向かって見られます(例えば 100m 層で 6 以上)。水温偏差について見ると、平年並みのところが多くなっています。

道南太平洋海域

津軽暖流モード移行中

100m 層で 10 以上の津軽暖流は、襟裳岬南方の 142-30E 付近まで張り出しています。前回(10 月)より張り出し位置が西側になり、200m 層水温分布から見ても津軽暖流は渦モード(*2)から沿岸モードへ移行中のようです。道南太平洋は津軽暖流に広くおおわれています。水温偏差について見ると、水温の高いところが多く、津軽海峡東口付近と浦河沖の 50m、100m 層(水温偏差表、道南太平洋白老沖 P64, P65, P52)で高くなっています。津軽暖流の流量の指標となる深浦 - 函館間の水位差を見ると、10 月以降 11 月まで津軽暖流流量は低めに推移しているようです。

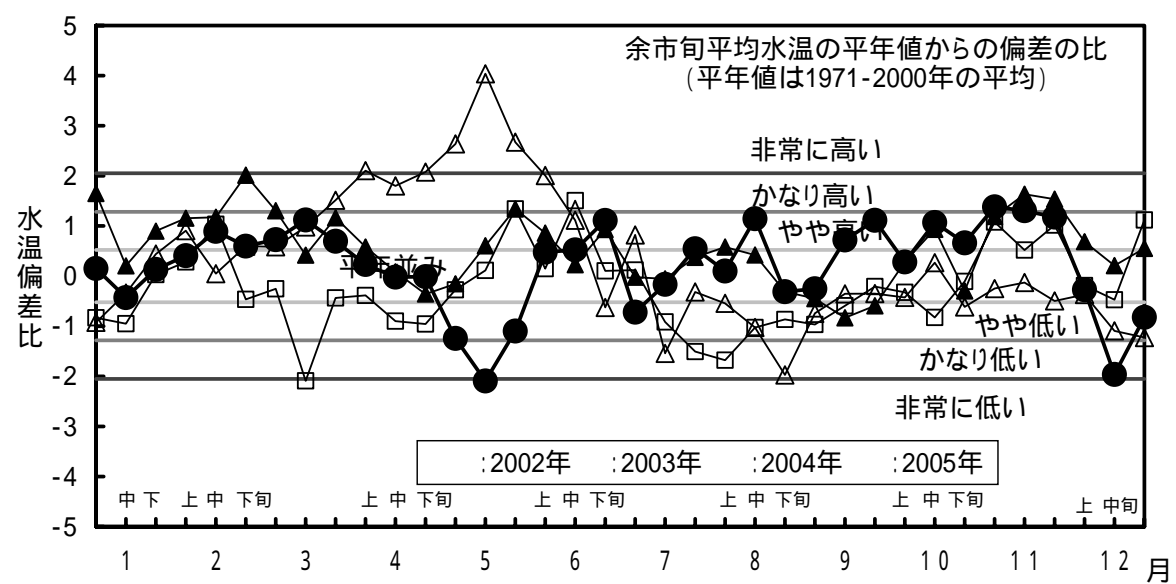
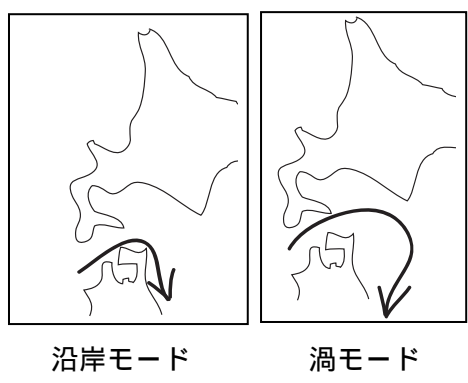
オホーツク海海域

宗谷暖流潜る

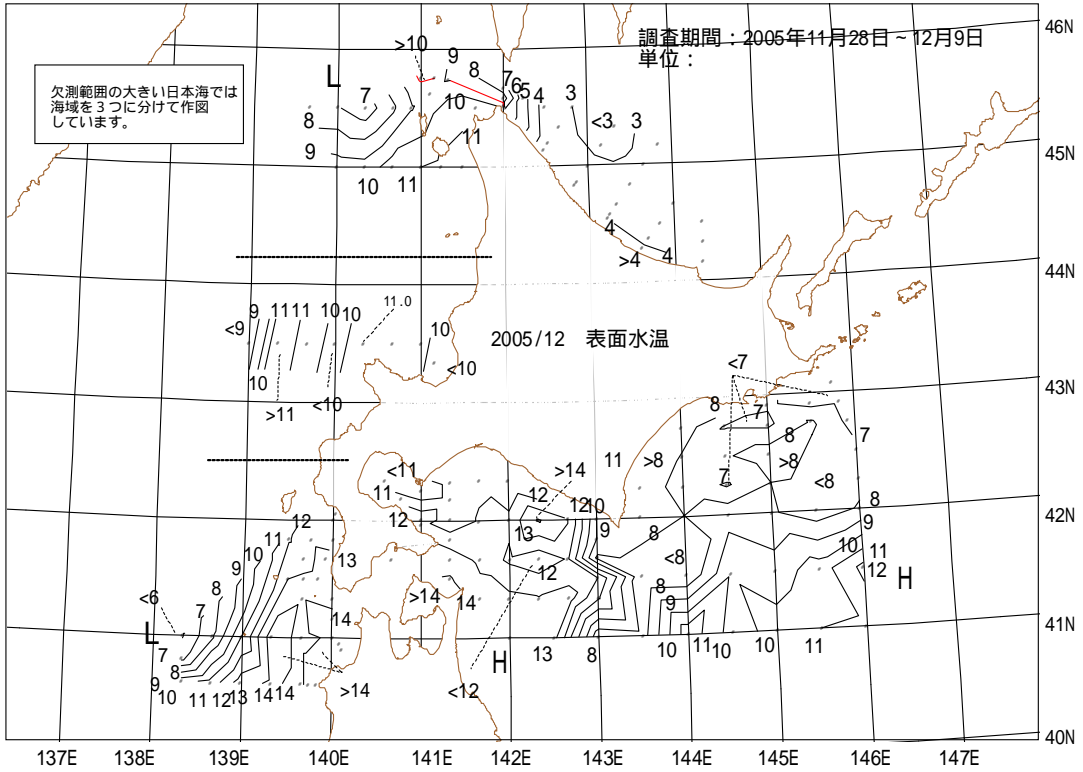
荒天のため知床半島北方海域が欠測となりました。浜頓別以東では、表面水温が 4 以下の東カラフト寒流におおわれています。宗谷暖流は浜頓別付近から潜流となり、網走沖まで 100m 層で 9 以上となっています。水温偏差について見ると、平年並みのところが多くなっています。宗谷暖流の流量の指標となる稚内 - 網走間の水位差を見ると、10~11 月にかけて宗谷暖流流量は平年並のようです。

資料	観測期間	観測海域
青森水総セ（東奥丸）	2005/12/6-12/7	（東北日本海海域）
釧路水試（北辰丸）	2005/11/28-12/8	（道東道南太平洋海域）
函館水試（金星丸）	2005/12/5-12/8	（道南日本海海域）
稚内水試（北洋丸）	2005/11/28-11/29	（道北日本海海域）
稚内水試（北洋丸）	2005/12/7-12/9	（オホーツク海域）
中央水試（おやしお丸）	2005/12/7-12/7	（道西日本海海域）

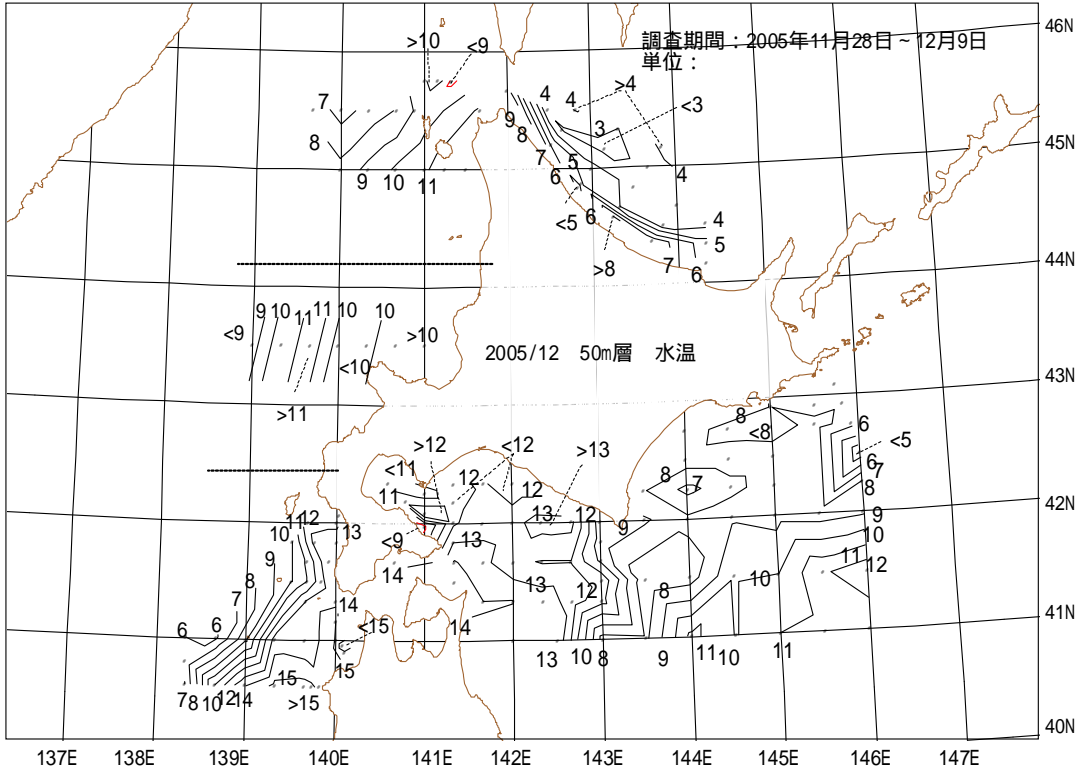
- * 1：夏～秋季に道東沿岸を流れるオホーツク海起源の沿岸流を道東沿岸流と呼んでいます。
- * 2：津軽暖流が津軽海峡から襟裳岬まで大きく張り出してから南下している状態を「渦モード」と呼びます。これに対して、津軽暖流が青森県尻屋崎からすぐ岸沿いに三陸方面へ南下している状態を、津軽暖流の「沿岸モード」と呼んでいます。



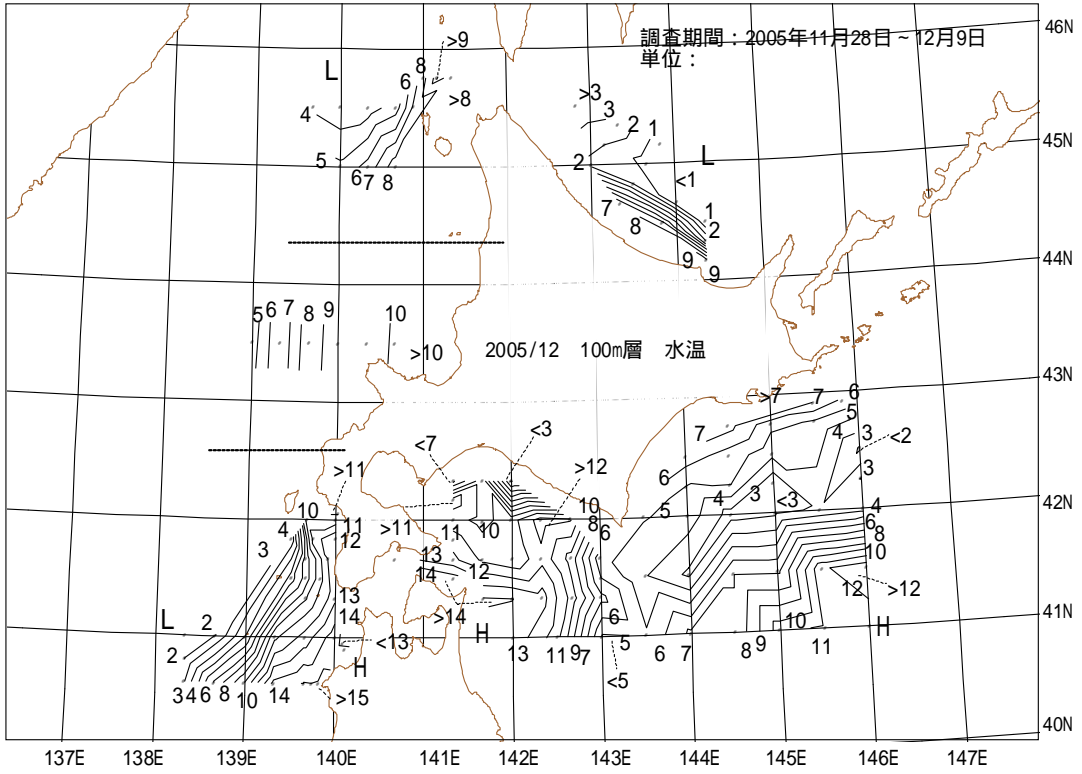
北海道立水産試験場 海況速報



北海道立水産試験場 海況速報



北海道立水産試験場 海況速報



北海道立水産試験場 海況速報

